

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	NPO 法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
実習期間	平成 30 年 8 月 20 日 ～ 平成 30 年 8 月 24 日
学生氏名	C1171762 橋本 惇
実習プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 8/20 ・ポスター発送準備（パソコンにおいての資料作成） 8/20～8/23 ・フィルムライブラリー内の見学 8/21 ・2019年映画祭開催にあたっての記者会見参列 8/22 ・資料準備 8/23 ・アンケートの集計 8/22 ・金曜上映会の鑑賞 8/24
学び・気づき (300字程度)	<p>第一回に開催された作品を見てみたところ、アメリカやフランスといった西側の方に位置している国の作品が多く、アジアの作品はゆういつ日本の作品一つだけであった。この背景として、アジア地域では政府により上映することはもちろんのこと、出品することなどもってのほかであったということを知った。</p> <p>来年の映画祭開催についての記者会見では、来年からアカデミー賞へのエントリー資格が認められたという事で、映像表現の多様性が世界からも認められ始めてきたのだと感じた。</p> <p>また、山形市が創造都市ネットワークに昨年から加入したということだったが、芸術が盛んなだけでなく、人々の生活や経済活動に根づいた結果がこのような結果に至ったのだと思った。</p>
今後に向けた 抱負 (200字程度)	<p>今回のインターンシップでの一つの目標として、ドキュメンタリー映像の魅力をいかに発信するかという事が目標であったが、若者の認識をより浸透させるというような抽象的なものしか見つけられなかった。</p> <p>そのため、来年開催される映画祭においてのボランティア活動に参加することで新たな発見が見つかり、より具体的な対策を見つけることができると思う。</p> <p>また、この映画祭のボランティア活動だけにとらわれず様々なボランティア活動に積極的に参加し、就職活動に繋がれたらいいと思う。</p>
インターンシ ップをして気づ いた、実習先の魅 力 (300字)	<p>二年に一度、映画祭を行っているという事だったが来年がその年であるため、来年の映画祭に向けた準備に携わらせていただいた。</p> <p>こちらでインターンシップを行うまでは、映画祭のボランティアというと、年配の方が多く若者が少ないイメージであったが思ったよりも高校生や大学生も多く、比較的年齢層は幅広いということだった。</p> <p>映画祭のボランティアというと、年配の方が多く若者が少ないイメージであった</p>

	<p>が思ったよりも高校生や大学生も多く、比較的年齢層は幅広いということだった。貧困地域において貧しい生活をしている人や、ひとりの人間として認めてもらえず、差別を受けている人などたくさんある。そんな中で、今起きている現状を映しだし、世界へと訴えかけようと活動しているのがドキュメンタリー映画でもあるように感じた。</p>
写真 (1~3点)	